

## 「言い伝え」

マルコの福音書 7:9～13

### はじめに

前回に続き、今日の箇所もまたイエシュアとその当時のユダヤ人、イスラエルの民の指導者的存在であったパリサイ人、律法学者たちとの問答を記したものとなっています。内容としては、聖書に記された律法と、その律法から派生して作られたユダヤ人たちの「言い伝え」とが対比され、どちらがより大切かということが問われているようなものとなっています。私たち教会は普通、この問いに対し、聖書こそが正しく重要であり、ユダヤ人の「言い伝え」など重要ではない、むしろ不要だと考えるでしょう。では今日の箇所にはその「言い伝え」の一つが具体的に記されているのですが、聖書の中に重要ではない、不要なことが記されているということになりますね。この矛盾とも言える問題を解決するには、どのような内容であれ、聖書に記されたものとして目を留める必要があると思われます。そして神のご計画の視点で読み取ることも忘れてはなりません。これらのことを覚えつつ、早速内容に入ってみましょう。

### 1. 父と母を敬え

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:9 またイエスは言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを保つために、見事に神の戒めをないがしろにしています。

7:10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない』と言いました。

7:11 それなのに、あなたがたは、『もし人が、父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は、コルバン（すなわち、ささげ物）です、と言うなら——』と言って、

7:12 その人が、父または母のために、何もしないようにさせています。

7:13 このようにしてあなたがたは、自分たちに伝えられた言い伝えによって、神の**ことばを無に**しています。そして、これと同じようなことを、たくさん行っているのです。」

イエシュアは、エルサレムから来たパリサイ人、律法学者たちに向かって「**あなたがたは…神のことばを無に**しています。そして、これと同じようなことを、たくさん行っているのです。」と言われ、神がモーセを通してイスラエルの民にお与えになった律法の中から、「**あなたの父と母を敬え。**」という一つの戒めを取りあげられました。この戒めは「十戒、シナイ契約」とも呼ばれる、神ご自身の指で二枚の石の板に書き記された十の戒めのうちの一つです。

【新改訳 2017】 出エジプト記

20:12 **あなたの父と母を敬え。**あなたの神、【主】が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

イエシュアはその「たくさん行っている…」という中から、なぜこの戒めを例に挙げられたのでしょうか。ここでイエシュアは「神の戒め」のことを「モーセは…言いました。」と言い換えておられます。ヨハネの福音書にこのような御言葉があります。

【新改訳 2017】ヨハネの福音書

5:46 もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことなのでから。

これはイエシュアの御言葉です。「モーセが書いたのはわたしのことなので」ということですから、「モーセは…言いました。」とあえて言い換えてこの「あなたの父と母を敬え。」を挙げられたということは、この戒めの中にイエシュアご自身の存在、働き、ご計画を指し示しておられると考えられます。それは決して、「イエシュアはご自分の両親を大切にされた」というような程度のもではありません。それではこの「あなたの父と母を敬え。」という戒めには、一体イエシュアの何が指し示されているのでしょうか。ここで「敬う」という意味で使われているカーヴァド(קָוַד)という言葉は本来、私たちの考えるそれとは全く異なる意味で使われました。

【新改訳 2017】創世記

12:10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。その地の飢饉が激しかったからである。

イスラエルの父祖、アブラム（アブラハム）がいた地方の「飢饉が激しかった」という、ここに聖書で最初のカーヴァドがあります。厳密にはこの箇所ではカーヴァドの形容詞形カーヴェード(קָוַד)として使われていますが、綴り自体はまったく同じです。ですから「敬う」という意味のカーヴァドは本来、かつてカナンと呼ばれたイスラエルの地が激しい飢饉に襲われ、エジプトに行くことが指し示された言葉であると考えられます。確かにイエシュアは「エジプトにしばらく滞在する」時期があり、それはホセア書に記された以下の預言が成就するためでした。

【新改訳 2017】ホセア書

11:1 「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、エジプトからわたしの子を呼び出した。

この「わたしの子」がイエシュアであることはマタイの福音書 2:15 に明記されています。この預言の成就としてイエシュアがイスラエルに來られた時、すなわち初臨と呼ばれる、イエシュアがマリアの胎に宿り、お生まれになった時、地は確かにカーヴァド「激しい飢饉」に見舞われていました。しかしそれは一般的に呼ばれているところの飢饉ではありません。神を知ることに対する飢饉、聖書の御言葉の飢饉です。神の御心を告げる預言者も、聖書の御言葉を正しく解き明かす祭司も、正しい王もいない時代、更にパリサイ人や律法学者たちによる律法主義がはびこり、また時の大国ローマがイスラエルを支配し、実質的にもローマの重税によってユダヤ人たちは極度の貧しい生活を強いられていました。イスラエルの「暗黒時代」とも呼ばれる、まさに激しい飢饉のような中、イエシュアは來られたのです。ですから「あなたの父

と母を敬え。」という戒めには、イスラエルの激しい飢饉の中に来られた、初臨のイエシュアが指し示されていると考えられます。ちなみにこの「父と母」についてですが、イエシュアにとっての父は、御父である神以外には考えられません。では母はというと、これはすなわち父の妻、御父である神と契約によって結ばれたアブラハム、イサク、ヤコブの子孫、すなわちイスラエルの民であると考えられます。実際にイエシュアの母となったマリアもれっきとしたユダヤ人、イスラエルの民でした。つまり「あなたの父と母を敬え。」という戒めには、御父である神のご計画のため、そしてイスラエルの救いのために来られたイエシュアの姿が表されていると考えられます。そしてこのイエシュアによって、その御業によってイスラエルの民は、神がお与えになると約束された地で、「千年王国」とも呼ばれる、長きにわたる祝福と安息の日々を過ごすことができる、そのようになるという神のご計画が示された戒めがこの

#### 【新改訳 2017】 出エジプト記

20:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

という御言葉の持つ、真の意味であると考えられます。ですからこの戒めは、決して「両親を大事にすれば、その御利益として長生きできますよ」というような、日頃の行いの良し悪しで人生が決まるような類の教え、迷信のようなものなどではなく、神の御子メシアであるイエシュアが、イスラエルを通して成し遂げられる、父なる神のご計画を表したものであるということです。

## 2. 父や母をののしる

またイエシュアは同じくモーセの名を用い、「父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。」という戒めをも示されました。「ののしる」という意味でここに使われているヘブル語カーラル(ללך)、これもまた本来はこれとは全く異なる意味で使われていました。

#### 【新改訳 2017】 創世記

8:8 またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。

これはノアの箱舟の物語の一場面です。かつて地上の全てを飲み込む大洪水が起り、ノアの箱舟に入ったものたちだけが生き残りました。その大洪水の終盤、ノアはこのことを行いました。「水が地の面から引いたかどうか」、ここに聖書で最初のカーラルがあり、本来のカーラルは「引く、退く、いなくなる」という意味であったことがわかります。この解釈に基づくならば、「父や母をののしる」とは、父母を退ける、失くすという意味になります。先ほどこの「父や母」とは父なる神とイスラエルの民を表していると述べました。ですからこの「父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。」という戒めには、父なる神とイスラエルを退ける、すなわち神のイスラエルに対するそのご計画を否定、拒絶する者、まさに「神の戒めをないがしろに」する者は、「必ず殺されなければならない。」必ず滅ぼされる、という神のご計画が表されていると考えられます。このように、神のご計画とは「神の国」がこの地上に建てられるというだけでなく、このご計画を否定する者、無関心な者、すなわち神を信じない者はみな滅ぼされると

いうものであるということです。これがいわゆる神の裁き、救いと滅びと呼ばれるものの、究極的な実態、出来事です。

### 3. コルバン

このように、神の戒め、聖書に記された、モーセの伝えた律法とは、神のご計画を指し示すものなので、しかし当時のイスラエルの指導者的立場であったパリサイ人や律法学者たちはこれを理解することができず、異なった解釈をもってこれを捉え、民を教え導きました。イエシュアはこれを神からのものではない、人からの教え「**自分たちの言い伝え**」とし、「**神のことばを無に**」していると主張しておられます。そしてここではその原因が「**コルバン (すなわち、ささげ物)**」にあるとしておられます。つまり神へのささげ物によって、神の戒めが無に、否定されているということになるのですが、この事実は一体何を表しているのでしょうか。コルバン(קָרְבָּן)とはヘブル語で「近づく」という意味のカーラヴ(קָרַב)から派生した言葉です。この最初の言及は創世記 12:11 です。

#### 【新改訳 2017】 創世記

12:10 その地に飢饉が起こったので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下って行った。その地の飢饉が激しかったからである。

12:11 彼がエジプトに近づいて、その地に入って行こうとしたとき、妻のサライに言った。「聞いてほしい。私には、あなたが見目麗しい女だということがよく分かっている。

12:12 エジプト人があなたを見るようになると、『この女は彼の妻だ』と言って、私を殺し、あなたを生かしておくだろう。

これは先ほども取り上げた、アブラハムが飢饉のためにエジプトに一時的に避難するという出来事ですが、ここで「エジプトに近づいて」という箇所、聖書で最初のカーラヴがあります。この時アブラムは妻サライの美しさのゆえに、自分はエジプト人たちに殺されるだろう、つまりサライのせいで自分は殺されると言っています。ですから本来のカーラヴには、妻すなわち愛する者のために殺される、犠牲的な死という意味が指し示されていると考えられ、ここにイエシュアの十字架の死、イスラエルの罪の贖いとしてのイエシュアの身代わりの死が表されていると考えられます。ですからこのカーラヴを語源とする「**コルバン (すなわち、ささげ物)**」とは、まさに神に赦しを請う、ささげ物、いけにえとしてのイエシュアの死を指し示すものであると考えられます。パリサイ人、律法学者たちの言い広めた「**自分たちの言い伝え**」は、このコルバンは「**あなたの父と母を敬え。**」というようなモーセの律法、十戒よりも優先されると説きました。もしこのコルバンが、イエシュアの十字架の死を意味するものとするならば、この教え、この言い伝えは、なんと真理です。なぜならイエシュアの十字架の死がなければ、モーセの律法が成就、全うされることはないからです。つまりイエシュアの十字架の死によって罪が赦されることによって人は「神の国」に入り、永遠のいのちが与えられ、その時初めて人は罪を犯さなくなり、律法を完璧に踏み行なうことができるようになるからです。ですからこのパリサイ人、律法学者たちの「**自分たちの言い伝え**」は、もしそこにイエシュアを認めるならば、その存在と働きを見出すならば、それは誤りでも偽りでもなく、神のご計画を表すものとなるということです。ですから今日の箇所をよく読めばわかるのですが、イエシュアはこのコルバンについての言い伝え、教えについて、これは誤りで、悪であるとも、罪なのでただちに止

めなさいとも言ってはおられません。まずイエシュアがコルバンとなってささげられなければ、誰も罪が赦されず、誰も救われず、「神の国」は建て上げられないのです。これは律法よりも優先されるという、これは事実です。ですからパリサイ人、律法学者たちをはじめとするイスラエルの民、ユダヤ人たちの考え方、視点は、根本から、全てが間違っているのではなく、ただメシアであるイエシュアが見えていない（隠されている）だけなのです。

#### 4. 神のことばを無にする

しかしイエシュアが見えない、イエシュアこそがまことのコルバン、世の罪をとりのぞく神の子羊であることが理解できないことは、まさに「**神のことばを無にして**」しまうほどの致命的なミス、過ちなのです。この「**無にして**」と訳されているヘブル語のパーラル(קָרַר)は本来「破る」という意味で、しかもそれは神との契約を「破る」破棄するという意味で使われた言葉です。

【新改訳 2017】創世記

17:14 包皮の肉を切り捨てられていない**無割礼の男**、そのような者は、自分の民から断ち切られなければならない。わたしの**契約を破った**からである。」

これは神がアブラハムとの契約のしるしとして命じられた割礼という儀式についての御言葉ですが、神の「**契約を破った**」という箇所には聖書で最初のパーラルがあります。そしてそれは「**包皮の肉を切り捨てられていない無割礼**」により、「**自分の民から断ち切られ**」ることを意味しています。この割礼についての命令はアブラハムに与えられ、代々にわたる、永遠の契約として与えられたものです。つまり、今日取りあげた「**言い伝え**」はもちろんのこと、モーセによって与えられた律法よりも先に定められたものです。イエシュアはこのパーラルという言葉を用い、イスラエルの民が「**言い伝え**」を守っても、たとえもしモーセの律法をも守ろうとしたとしても、人の力や行いによっては、誰も神の選びの民となり「**神の国**」に入ることはできないということを示し、ご自分が神の御前にささげられる、すべての人の罪の贖いとしてささげられる、まことのコルバンであることを指し示しておられるのだと考えられます。

#### 5. まことのコルバン

【新改訳 2017】ローマ人への手紙

3:23 すべて的人是罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、**価なしに義と認められる**からです。

イエシュアだけが、すべての人の罪の贖いとしてのイエシュアの十字架の死だけが、人を神の御目に義と認めさせ、「**神の国**」の民とならせる唯一の方法であり、「**言い伝え**」よりも律法よりも優先される神の恵み、契約、計画なのです。ユダヤ人たちの「**言い伝え**」は、モーセの律法をないがしろにし、神の御言葉を無にする結果をもたらしましたが、イエシュアの十字架の死というまことのコルバンは、やがてモーセの律法を完璧に踏み行なうことのできる、すなわち神の御言葉にのみ聞き従う「**神の国**」の民を生み出します。その事実が、神のご計画として今日の箇所には指し示されていると考えられます。

イエシュアの十字架の死によって、あなたのすべての罪が赦されていることを信じますか？信じる人はアーメンと言いましょう。信じる者に約束された、御国が来ますように。